Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-08-21

Kernel通信

神戸大学附属図書館電子図書館係

(Issue Date)
2019-02-22

(Resource Type)
other

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100475645

神戸大学　学術成果リポジトリ　ニュース

Kernel通信

第　20　号

2019年　2月

◆　研究者紹介　　～　板倉 史明　先生　～

Kernel で論文を公開されている研究者を、通信でも取り上げてご紹介しています。今回は、映画学がご専門の板倉史明先生（国際文化学研究科）です。

板倉 史明先生インタビュー

私たちが日常的に娯楽として楽しんでいる映画。その裏側を知る人はもちろん多くありませんが、見えているはずの表側にも知られていない一面があると聞けば興味が湧いてきませんか。今回のインタビューでは、そんな映画の奥深さを探求する板倉先生からお話を伺いました。

東京国立近代美術館フィルムセンター（現・国立映画アーカイブ）でアーキビストとして活躍された経歴から、板倉先生は映画の中身だけでなく“モノ”としての映画にも造詣が深く、映画フィルムのアーカイブについて様々な考え方や取り組み事例をご紹介いただきました。映画の仕組みや表現については、最新の共同プロジェクトに触れられ、映画学はもちろん異分野とコラボレーションする研究の魅力が窺えます。

映画を見て人は何を感じるのか、その映画はどうやって作られたのか、時代の記録としての映画や映像の価値とは。映画を軸に様々な視点から展開される研究の深さと広さに圧倒されます。これまでとは少し違う視点で映画を楽しみ、身近にあるちょっとした映像も大事にしたくなるようなインタビューです。詳細は、全文でお楽しみください。

インタビューの詳細はこちらから

http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/interview20181218.html

先生がおすすめする１冊：『映画とは何か』（加藤幹郎著）

◆ Kernel ニュース ◆

紀要を公開しませんか？

みなさまの部局で刊行されている紀要、報告書、年報、論文集などを Kernel で公開しませんか？　Kernel での公開は、個々のウェブサイトで PDF を公開する以上のメリットをもたらします。

メリット①　アクセス数の増加

Kernel だけでなく、CiNii Articles や Worldcat 等の包括的なデータベースにもデータが連携されて検索が可能になります。そのため、国内外からの発見可能性が向上します。

メリット②　サーバ管理・維持の省力化

面倒な PDF の保存やサーバ管理を附属図書館に委託できます（無料）。

メリット③　ウェブ上での永続アクセス保証

JaLC DOI*の付与が可能になり、電子ジャーナル化した紀要への永続的なアクセスを保証します（要相談）。また JaLC DOI は、科研費の報告書等、各種報告書の DOI 欄に記入することが可能です。

*Japan Link Center (JaLC)が付与する DOI。JaLC は国際 DOI 財団から、国際的な識別子である DOI 登録機関として認定されています。詳細についてはこちらをご覧ください。

◆最近、公開を始めたコンテンツのご紹介

１）『愛知：φιλοσοφια』（神戸大学哲学懇話会）
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/NCID=AN10292566.html

２）Journal of Corpus-based Lexicology Studies（英語コーパス学会語彙研究会）
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/eISSN=2434169X.html

※神戸大学発行の紀要 電子版の一覧はこちらからご覧いただけます。
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/Cover.cgi

◆～コンテンツの公開を始めて～　人文学研究科・茶谷 直人先生からのコメント

『愛知』は、神戸大学文学部・大学院人文学研究科の哲学・倫理学教員、卒業生、大学院生等から構成される「神戸大学哲学懇話会」が発行する雑誌で、1984 年以来ほぼ毎年のペースで刊行し、2018 年現在、通刊 29 号を数えるに至っています。雑誌名は philosophy の元となるギリシア語 philosophia が「知を愛すること」を意味することに由来します。創刊当初は論文だけでなく同窓生による随想文などの寄稿も多く、関係者間の交流の場的な意味合いを含んだ和やかなものでしたが、現在は論文審査委員による査読体制を整えた学術雑誌として機能し、学内外の教員のみならず、大学院生などの若手研究者たちが毎年積極的に研究論文・研究ノート・翻訳などの投稿を重ねています。今回、遅ればせながら機関リポジトリ Kernel に登録を申し込み、過去数号分の全文掲載が実現し、今後の発行分についても掲載をお願いいたしました。そのメリットは、やはり情報発信力です。われわれ哲学研究者によるテクストとの対峙（たいじ）と思索の成果も、やはりできるだけ多くの人々の目に晒（さら）される形で世に問われなければ、ただの紙切れとインクの染みに終わりかねません。その意

味ではこのようなリポジトリ登録は、自らが研究者として評価され安定した研究職に就くための努力を日々続けている若手研究者たちにとってもっとも有益で意義を持つものであるといえるでしょう。自分の論文にカウントされたダウンロード数の分だけ、研究者としてのわれわれの励みは増してゆく――そんな気がいたします。

「オープンアクセスの実現方法」を作成しました

論文を執筆する教員・院生等に向けて、2018 年 11 月に「オープンアクセスの実現方法（PDF ファイル）」を公開しました。

近年、公的資金での研究成果は広く社会に還元されるべきという観点から、多くの研究助成機関では研究成果の公開を義務化・推奨しています。このように学術論文をインターネット上で自由利用可能な状態にすることを「オープンアクセス」と呼びます。

このオープンアクセスを実現する方法としては「オープンアクセス出版をしている学術雑誌に論文を掲載する」、「出版時のオプションとして論文単位でのオープンアクセスを選ぶ」、「自機関等のサーバ上で権利処理をしたうえで公開する」といったものがあります。この他、知っておくと役立つ基礎知識や用語集を両面 1 枚にまとめました。図書館ウェブサイトで配布していますので、ぜひお役立てください。

https://lib.kobe-u.ac.jp/media/sites/3/img-oaroad.pdf [pdf: 329KB]

◆ 研究者のみなさまへ　～オープンアクセスの基礎　その(3)～ ◆

図書館を取り巻く環境が近年大きく変化しています。その中でも、学術情報を日々利用・発信されている研究者のみなさまにぜひ知っていただきたいオープンアクセスについてあらためてご紹介いたします。

過去記事一覧

～オープンアクセスの基礎　その（1）～

- オープンアクセスとは何か？
- オープンアクセスの２つの道
- オープンアクセスをめぐる政策

～オープンアクセスの基礎　その（2）～

- オープンアクセスの課題
- オープンアクセスをめぐる政策

◆OA2020 について

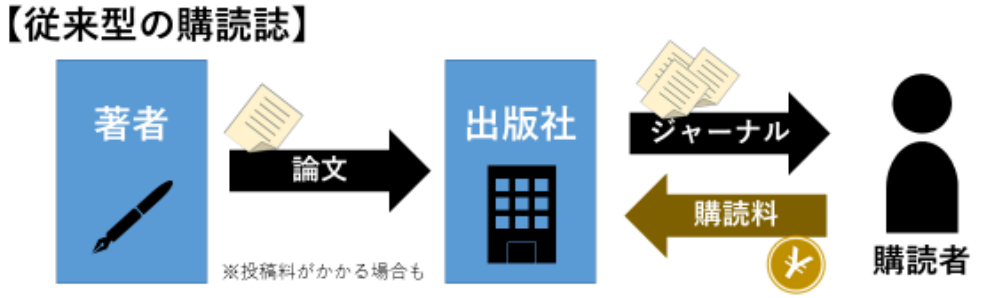
OA2020（Open Access 2020）とは、2016 年 3 月にドイツの Max Planck Digital Library（MPDL）を中心に始動した、2020 年までに世界の学術論文の大部分のオープンアクセス（OA）化を目指すイニシアチブです。

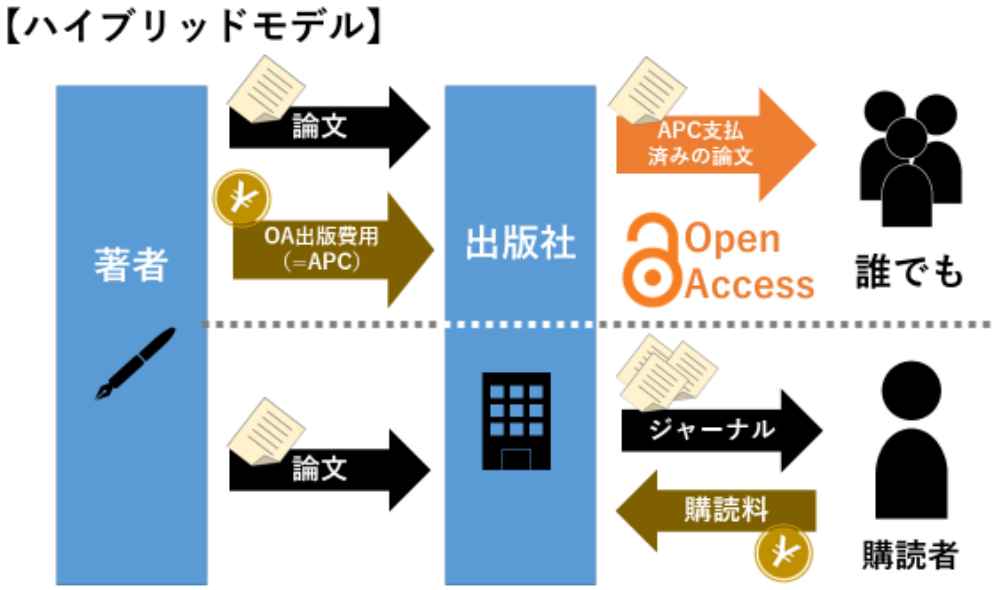
OA2020 への参加対象は、学術的な出版に関係する団体全般（学術出版社、大学、研究機関、助成団体、図書館、出版社など）で、各国からの参加を呼びかけています。

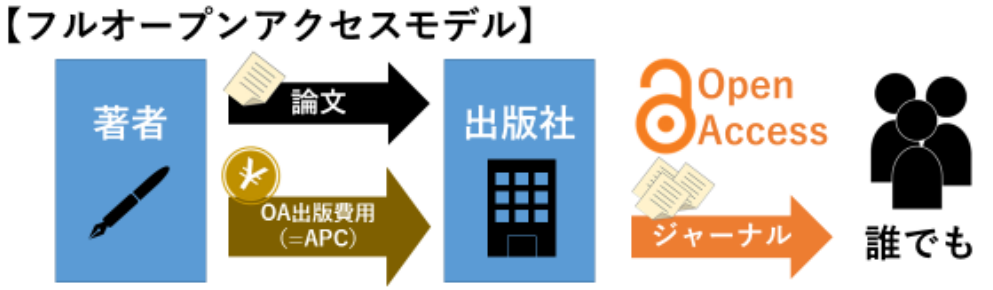
日本からは大学図書館コンソーシアム連合（Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources, JUSTICE）と物性グループ（物性物理学研究者の任意団体）がそれぞれこの関心表明に署名しました。

MPDL はオープンアクセスを実現するためのロードマップとして、読者が出版社に支払っている既存の購読料を OA 出版費用（Article processing charges，APC）に振り替える試算を行いました。その結果、既存の購読料で OA 出版費用をまかなえると結論付けています。また、OA2020 を実現するため、既存の購読モデルのデータ分析、購読モデルから OA モデルへの移行ロジックなどを構築、提示し、各地での啓蒙（けいもう）活動を行っています。

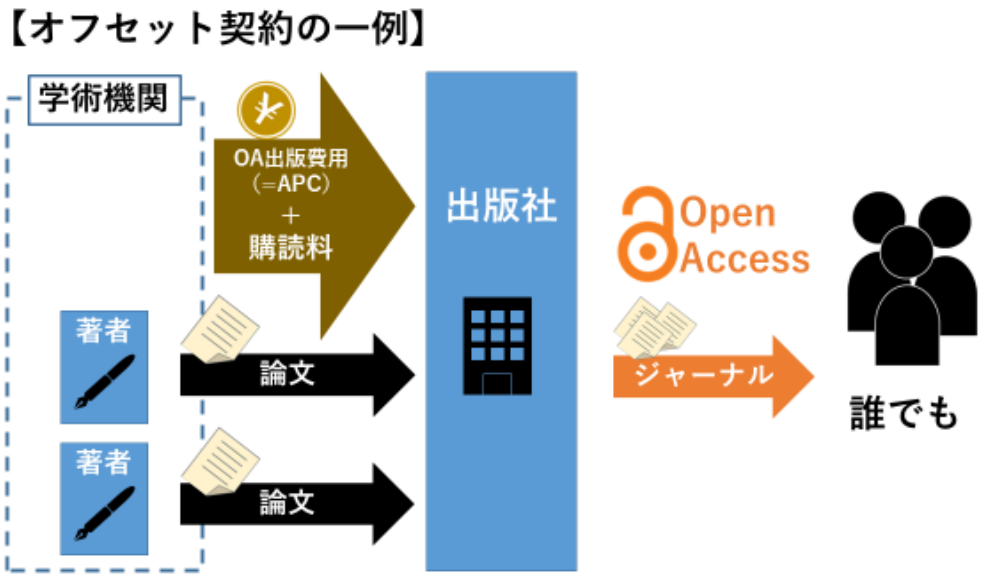
一口に学術雑誌のオープンアクセス化といっても、大まかに分けて２種類のモデルが存在します。ひとつはハイブリッドモデルです。これは従来型の購読誌（購読者が出版社に購読料を払うもの）に収録される論文に対し、著者が自ら APC を負担して追加でオープンアクセスにするオプションです。もうひとつはフルオープンアクセスモデルです。これは収録論文がすべてオープンアクセスを前提としているものです。OA2020 ではハイブリッドモデルは購読者からの購読料と著者からの APC の二重取りである（double dipping）と批判し、また一般的にハイブリッドモデルの APC が高い傾向にある点から、オープンアクセスへの転換としては、フルオープンアクセスモデルのみを認めています。





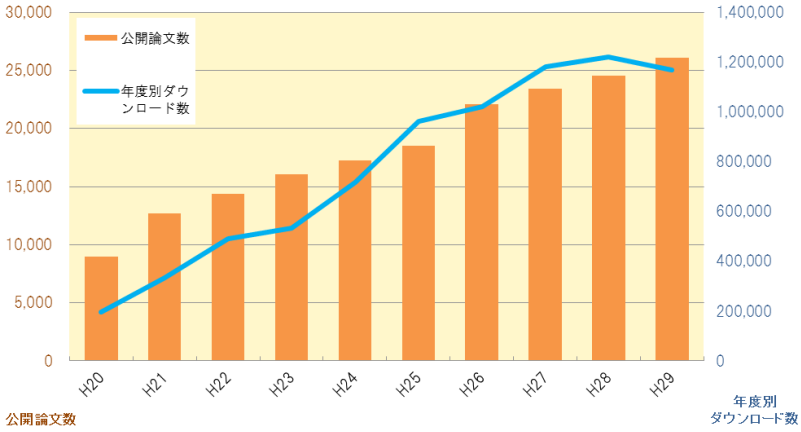


OA2020 の中心である MPDL では、著者が個別に APC を支払うのではなく、機関契約を行い APC と購読料を相殺するオフセット契約を促進しています。これは従来型の購読モデルからフルオープンアクセスモデルへの過渡期における購読と APC の折衷案のひとつです。この他、Read and Publish モデル（支払額に購読料と APC を含める）や APC 割引等、OA の条件を盛り込んだ契約を各出版社と交渉しています。その成果として OA 出版に関する契約を結ぶ出版社数、それに伴い MPDL が所属する Max Planck Society の構成員が執筆した全論文のうち、OA ジャーナルが占める割合は増えています。MPDL は 2020 年までに、OA 出版社または OA に移行する新モデルを契約した出版社から刊行される論文が、全論文の 80%に達することを目標としています。MPDL では 2019 年は OUP（オックスフォード大学出版局）や ACS（アメリカ化学会）と新たに契約する一方で、Elsevier 社とは契約を中断するなど、様々な試みが行われています。



フルオープンアクセスモデルや、そのほかの選択肢も含めた持続可能な OA のモデルへの転換にむけて、OA2020 をはじめとした動きは今後も活発になることが予想されます。

◆ Kernel 統計（公開論文数と年度別ダウンロード数　推移）　◆



公開論文数と年度別ダウンロード数推移

ダウンロード回数は年間、約 100 万回を保っております。公開論文数の前年度比増加数は

H28 年度：1,106 件

H29 年度：1,525 件

となっており、H30 年度についても、2019 年 1 月末時点で、1,346 件増と順調に数字を伸ばしています。これからも研究成果の公開に努めてまいります。

Kernel 通信　　第 20 号　2019 年 2 月 22 日　発行

神戸大学附属図書館　電子図書館係

編集協力　山本・佐藤（アウトリーチ WG）、榎（OA 推進 WG）

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

社会科学系図書館 3 階

Email：repo@lib.kobe-u.ac.jp　Tel：078-803-7333　Fax：078-803-7336